

二〇二四（令和六）年度

長野大学 総合型選抜

「小論文」

受験番号	
FF—	
TT—	
JJ—	
	氏名

※受験番号欄には、FF・TT・JJのうち該当するいずれかを○でかこみ番号を記入すること。

△受験上の注意▽

- ① 試験中は試験監督者の指示に従うこと。
- ② 筆記用具・時計以外はカバン等に入れてイスの下に置き、机の下の棚には何も置かないこと。
- ③ 携帯電話の電源を切り、アラームを解除すること。
- ④ 質問等がある場合には黙って挙手すること。
- ⑤ 途中退場は認めない。
(体調の急変等については、挙手して申し出ること)
- ⑥ 試験開始の合図があったら、「出題文用紙」「下書き用白紙」「解答用紙」があるので確認すること。
- ⑦ 表紙、解答用紙に受験番号、氏名を記入すること。
- ⑧ 解答用紙は鉛筆書き（シャープ・ペンシルも可）とし、楷書で丁寧に書くこと。
- ⑨ 時間は六〇分である。

二〇二四（令和六）年度 長野大学 総合型選抜
小論文 出題文用紙

次の文章を読み、設問一および設問二に答えなさい。

異質な人間を圏外へ追いやり、同質な人間だけとつながろうとする心性は、ケータイの普及によって広まった現象ではないでしょう。しかし、このような心性をもつ人びとにとって、ケータイを最先端におくネット環境が好都合なものであることは事実です。いまや私たちは、ケータイのおかげで、いつでもどこにいても、自分がつながりたい相手だけと即座につながることができます。

現在のようなネット環境がととのう以前、時間と空間を隔てた相手とコミュニケーションをとるための手段は限られていました。意中の相手とつながりあうためには、自分にとって不都合な人間とのコミュニケーションも途中で経由しなければなりません。かつて、年頃の男の子の多くは、ガールフレンドの自宅へ電話をかけるとき、「あの厳格な父親が出たらどうしよう」と緊張しながらダイヤルを回したものです。じつは私自身もそうでした。自分にとって心地よい人間関係を築くためには、同時に不都合な人間とも否応なく付きあわざるをえなかったのです。

しかし近年は、時間と空間の制約を超えて、異質な人びとがつながりあうことを技術的に可能にしたネットという便利なシステムが、また同時に、同質な人びとが互いにつながりあうことを容易にする手段としても、大いに役立つようになっていきます。広大なネット空間へ開かれたケータイの小さな窓を覗き込むことで、面倒で不都合な人間とはいっさい触れあうことなく、自分にとって心地よい相手だけと、即座に人間関係を築くことができるようになっていっているのです。

ネットの世界では、アバターと呼ばれる分身がしばしば置かれるように、人間のキャラ化が促進されます。特定の情報だけを送受信し、一面的な人格イメージを意図的に操作しやすいからです。雑多な情報を切り捨てること、イメージを純化させやすいのです。多面的な要素から成り立つアイデンティティと違い、単純化された人格であるキャラにとって、多種多様な情報はかえってノイズとなります。ネット・コミュニケーションでは、そのノイズのカットが容易なのです。

では、ケータイという文明の利器を駆使することで、若い人たちは人間関係の困難を克服しているのでしょうか。これまで述べてきたように、けっしてそうではありません。常時接続を可能にしてくれるケータイは、孤独を解消してくれる便利なツールのように見えて、じつはそのように機能してはいません。ケータイ自体はニュートラルな装置ですから、使われ方次第で、逆にその孤独を増長することもあります。じつさい、秋葉原で事件（註1）を起こしたK青年にとって、ケータイは自己の疎外感を強めるツールへと変貌してしまっていました。

今日では、一人でいることの孤独から逃れようとして多用されるケータイが、かえって一人でいることの恐怖を募らせるという皮肉な事態が生まれています。自己肯定感の揺らぎを手っ取りばやく解消しようとして、同質な人間だけで固まってしまいがちになっているからです。その傾向にあらがいが、人間関係を異質な他者へと広げていく手段としてではなく、むしろその関係の狭小化をさらに促進する手段として、ケータイを用いる傾向が強まっているからです。見知らぬ他者との出会いを規制するフィルタリングの強化は、その傾向をさらに促進するでしょう。

（註1）2008年6月8日に東京都千代田区の秋葉原駅付近で起きた青年による無差別殺傷事件を指す。

（土井隆義『キャラ化する／される子どもたち…排除型社会における新たな人間像』一部改変）

